

俳句

大津俳句会

草山の起伏雪加の啼く起伏

井芹眞一郎

勢ひ立ち青葉の山の迫り来る

秋山 恵子

まつ直ぐに闇を切り裂くはたた神

市原 初女

庭中を埋めてしまひし濃紫陽花

大塚喜久子

代田へと流るる水の勢いかな

佐賀 久子

阿蘇谷の棚田映ろふ夏の雲

松尾 昭雅

肩書を捨てたる余生代田搔く

岡崎 浩子

花苺お堂に続く細き道

森山美穂子

朝涼にこころゆだねる静寂かな

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

ユキザサがゆれる九重の夏の峰

梅木トキエ

万緑の呼吸する気配 君と居て

塚本 洋子

草いちご摘めば子どもになる両手

榮田しのぶ

仁王立ちの「白肅」恐れぬ夏鴉

志賀 孝子

石段を駆け下りてくる青嵐

田上 公代

逆光に牛の背でんと阿蘇の夏

木庭 杏子

ポンポン草揺れて昭和の影法師

上杉 波

合歓の花 人に倦みつつ人を恋う

矢嶋 道子

柿若葉清正公の烏帽子かな

水野 春子

俳句

大津短歌会

許しなく外出の猫しおしおと枯葉総身に
にぶら下げ帰る

坂本 杲子

矢護川にすずかぜ流れ螢とぶ水面に淡き
光を映し

鞍 岳志

長き夜にうたを詠まんと指おりてメモ重
なれば朝早に見る

管野 静

澄む空に老鶯の声響く歩みを止めて聞き
入るなり

豊岡ミツル

幾万の光を放ち山の端を静かに登る朝の
太陽

吉永 恵子

楠若葉きらめく光樹々に満ち見上げる空
に月ぞ白みぬ

小平 善行